

～ 旧町名を記憶する場～

桑 町

くわまち

現在の中央通りを中心とする一带は
かつて「桑町」と呼ばれていた。

江戸時代から 昭和 41 年（1966）まで



昭和3年 桑町 神武天皇山車
(片原通り 横山工場前)



桑町街ネオン

『前橋風土記』（貞享元年）に見える下之町が豎町・横町（横山町）・桑町に分かれて成立。町内に桑の大木があったことが町名の由来であると言われている。

江戸時代の「祇園祭り」では、藩主松平大和守家から「巴」の紋を賜ったが、松平家が「右巴」であったことから、「左巴」にして桑町の紋として使った。桑町の山車（祭屋台）の人形は牛若丸であったが、日露戦争後に神武天皇に替わった。

明治 27 年（1894）、総社の天狗岩用水を利用した前橋電燈株式会社が創設されたとき、率先して電気をつけたのは桑町であった。明治 40 年（1907）刊行の『前橋繁昌記』によると、町内に土木 2、工業 2、衣服 9、荒物 12、雑貨 9、料理 4、飲料 4、乾物青物など 8、砂糖並菓子 6、医療 4、髪結銭湯 1 の商家が見える。明治 40 年頃まで桑苗市でにぎわったという。

桑町は連雀町、紺屋町、横山町、豎町などに囲まれた小地域だが、前橋切っの目貫通りとなり、代表的な商店が立ち並んだ。中心六商店街が形成されると、ライバル商店街との競争から「ネオンアーチ」を共同事業として完成させ、桑町通りは「鈴蘭街」と呼ばれる賑わいを築いた。



昭和 10 年頃の桑町通り



ふりがな
Scan and
select
language



設置：令和 6 年 11 月 前橋市（前橋市歴史的風致維持向上計画・ヒストリックランドマーク整備事業）

※この事業は、「（一財）ぐんま食と歴史文化財団」からの支援を受けて実施しています。